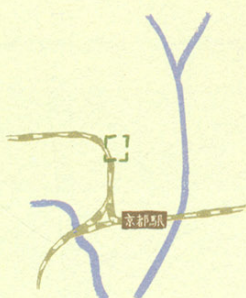


二条城南

Nijojo Minami



文・写真 / 大和まこ



area data

今回は二条城の南に広がるエリアを二条城南と名付けて紹介したい。北は御池通から南は蛸薬師通下ル、東は油小路通から西は千本通東入ルまで。アーケードのある京都三条会商店街もエリア内。北側から巡るなら地下鉄二条城前駅や二条駅、JR二条駅を利用して。南からなら阪急京都線大宮駅や嵐電四条大宮駅の利用を。

路地の奥や営業日の少なさにも、めげずに巡りたい個性店揃い。



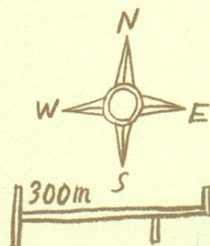
とことん選び抜かれた、台所用品を中心とした日用品が揃う『ラダー』。

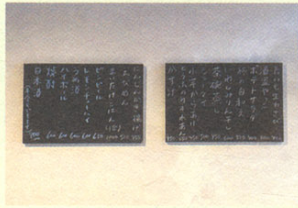


この界隈が静かだった頃からある『喫茶チロル』は、いつしか人気店に。



いつもそこにあるという安心感がある、コーヒースタンド『二条小屋』。





28



27

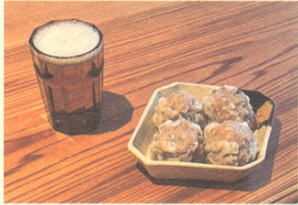


7

イノウエ Inoue

27 日本酒は島根の天穂など、その時々で10種類ほどが揃う1合¥800〜。乾燥した青大豆を戻して漬け汁に漬けたひたし豆など、日本酒との相性のいいアテはその時々で。28 店名が書かれた丸い看板を目印に。29 黒板のお品書きは端から端まで頼みなくなる。30 シュウマイ¥550は注文してから皮に包んで蒸してくれる、出来たて感が嬉しい。角切りのレンコンが食感のアクセント。

京都市中京区猪熊蛸薬師下ル瓦町568 ☎なし
17:00〜23:00 (22:30LO) 月休ほか不定休 営業日時はInstagram(@inoue_inokuma)で確認を。



30



29



クマガスク

8

kumagusuku

31 クリエイティブデュオ〈スタジオ パランス〉による『ゲシュタルト』では、ライフプロダクトを販売。32 『物と視点』は美術家でもあるオーナーの矢津吉隆さんが営む。33 このときは「風景をつくる野良着」がテーマのブランド〈サギョウ〉のポップアップが営業。34 植物をモチーフにしたテキスタイル『ウワル』。35 1階奥のスペースは展覧会などが開かれる。36 常に変化し続けている。

京都市中京区壬生馬場町37-3
☎075-432-8168 11:00〜17:00 (土日〜18:00) カフェなどは店舗により営業時間が異なるためHPやInstagramで確認を。



31



33



32

東坂あられ

9

Tosaka Arare

37 右から、薄く焼いたあられを白醤油で味付けした一番人気のお城焼き、山椒の風味が口に広がる鬼あられ、マヨネーズ風味の味松葉。各¥300。38 店頭の様子が写っている。39 小さな暖簾が出ているのは営業の印。

京都市中京区大宮御池下ル三坊大宮町149 ☎075-841-2160 8:00頃〜18:00頃 不定休



37



38



39



36



35



34

°Cのコンバクションオープンで加熱されたピーツなどの半調理野菜。食卓の強い味方である。

お腹がすいたなら京都三条会商店街に登場した「かふー」へ。商店街のすぐ近くで人気の沖縄鉄板料理『やちむん』が展開。「飲める沖縄食堂」をテーマに、昼夜共に使い勝手がいいのも嬉しい。夜になれば猪熊通に灯がともる『イノウエ』も魅力的な選択肢。「作りたかったのは仕事終わりに寄れる、日常づかいできる店。日本酒もおいしいと知ってほしいし、アテと一緒に楽しんでもらえれば」という店主の井上愛さんが、妹の紗也佳さんと二人で切り盛りする。白和え、かす汁など黒板に書かれた品書きからも伝わってくる加減のよさ。オンオフのスイッチの切り替えに立ち寄りたくなる一軒だ。

振り返ってみると、このエリアを歩いてみようという気にさせたのが、15年に展覧会の中に泊まる宿として登場した『クマガスク』だったと思う。21年にアートの複合施設として生まれ変わった、新生『クマガスク』もやっぱり外せない。美術作品から廃材までを扱う『物と視点』をはじめ、創造性が掻き立てられるユニークな7つのショップと、ギャラリー、カフェという顔ぶれ。それぞれ小箱ながらも見応えは十分だ。

最後に買いたいのは大正5年から続く『東坂あられ』の素朴なあられ。コンパクトな範囲に個性ある顔ぶれが揃う二条城南。道に迷って思わぬ出会いをするのも、また楽しい。